

安全講話

株式会社アイムホーム災害防止協議会

令和8年6月17日

安全衛生課 大城

バックホーとの接触により腕を骨折（休業約3か月）

オペレーターがバックホーを後退させようとしたところ旋回させ、旋回範囲内で待機していた作業員にバケットが激突した



オペレーターの誤操作が原因の一つではあるが...

労働安全衛生法では立ち入らせていた**事業者（法人）**や**責任者の違反**となる！

住宅の改修工事で足場から墜落し**死亡**

屋根の補修を終え、地上に降りようと屋根から外部足場に渡った際に墜落した（推定）



墜落高さ約3メートル

第一発見者によると、保護帽は離れたところに落ちていた

あごひもを締めていなかった可能性がある（推定）

死亡災害の墜落高さ

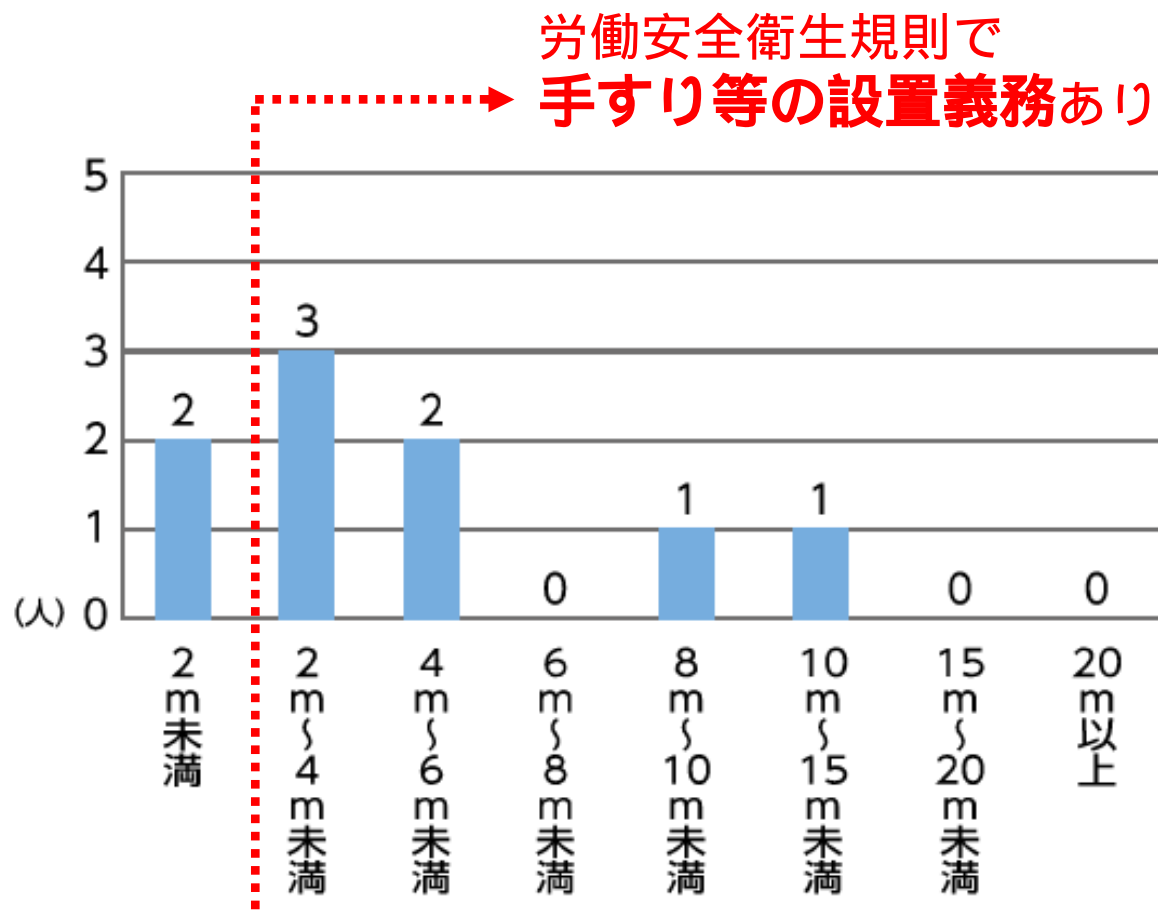
ある10年間に沖縄県内の建設業（建築工事）で発生した墜落死亡災害を墜落高さ別に示したものです。9人の方が墜落災害で亡くなっております。

高さが増す程墜落時の衝撃は増すが・・・

比較的低い高さからの墜落による死亡事故が報告されている

はしごや脚立
車両上部や荷台
からの墜落でも

死亡する可能性がある！



保護帽（ヘルメット）の重要性

わずか50cmの高さから転落した場合でも、打ちどころによっては死亡災害に至ります。高さが2 mに満たない地点での作業であっても、作業時には必ず保護帽を着用しましょう。

必ず保護帽を着用！



着用時

5つのポイント

- 1 「墜落時保護用」を使用すること
- 2 傾けずに被ること
- 3 あご紐をしっかりと、確実に締めること
- 4 破損したものは使わないこと
- 5 耐用年数を守ることに

保護帽（ヘルメット）の重要性

Check 1

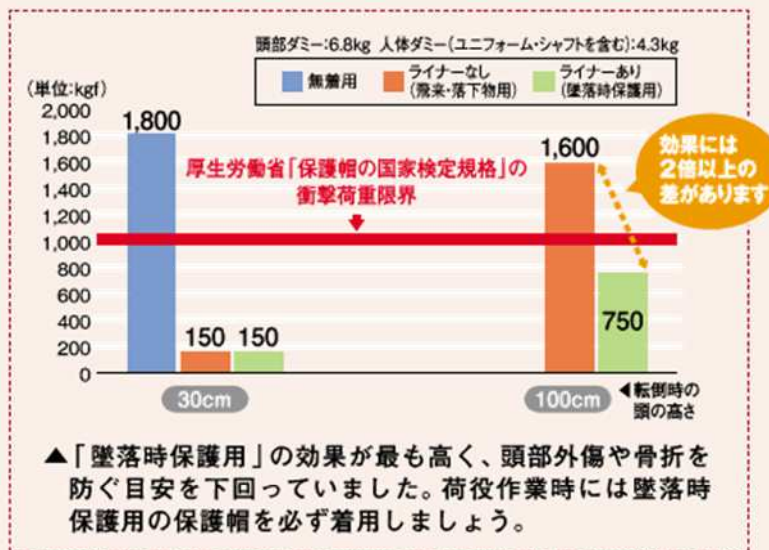
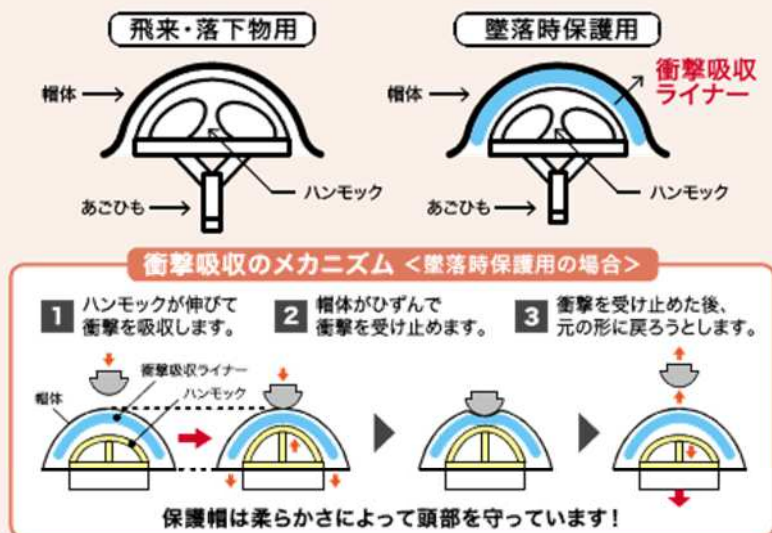
対策例 1

墜落・転落時編

保護帽の効果を教えてください！

保護帽（ヘルメット）とは労働安全衛生法第42条の規定にもとづく「保護帽の規格」に合格した製品を言います。この保護帽には「飛来・落下物用」と「墜落時保護用」の2種類があり、荷役作業では帽体内部に衝撃吸収ライナーと呼ばれる衝撃吸収材を備えた墜落時保護用を使用することが望まれます。

ここでは着用効果を知ってもらうため、「着用なし」、「飛来・落下物用」、「墜落時保護用」の3種類で頭部にかかる衝撃をグラフに示しました。100cmから転倒した時の効果には2倍以上の差があり、飛来・落下物用では効果が不十分なことがわかりました。



■保護帽に関する詳細な情報は日本ヘルメット工業会のサイトから入手できますのでご覧ください。

協力：一般社団法人日本ヘルメット工業会 (JHMA) <http://japan-helmet.com>、株式会社谷沢製作所

不安全状態

不安全行動



労働災害のほとんどは「**不安全状態**」と「**不安全行動**」の両方が原因

人間の行動特性（人間特性）と対策

不安全行動

人間特性によって引き起こされるエラー（ヒューマン・エラー）によるもの

錯誤（錯覚）、不注意（ウツカリ・ボンヤリ）
など

わかっていながら規則等に違反してしまうことによるもの
近道行動、省略行為

など

行動特性

エラーするのが当然。
そのためには・・・

**機械の安全化等・・・・・・・・・・ハード（物）の面
作業標準による教育等・・・・ソフト（人×物）の面**

可能な限り抑えるのが安全衛生管理の基本

- 人間はもともと**エラー**する不完全な存在であることを認識する
- 建設業における労働災害の**90%**は**ヒューマン・エラー**によるものと言われている

「正確に！」は難しい

- 心理学的に、人間は欠陥だらけの動物で、様々なエラーは当たり前。
- 人間の不完全な心の特性を正しく捉え、エラーをしないように、エラーしても事故を起こさないようにしていくことが重要。

不注意

錯覚

省略・近道反応

危険予知（KY）活動

4S（5S）

ヒヤリハット報告

朝礼，作業開始前ミーティング

職場巡視

店社パトロール

安全大会

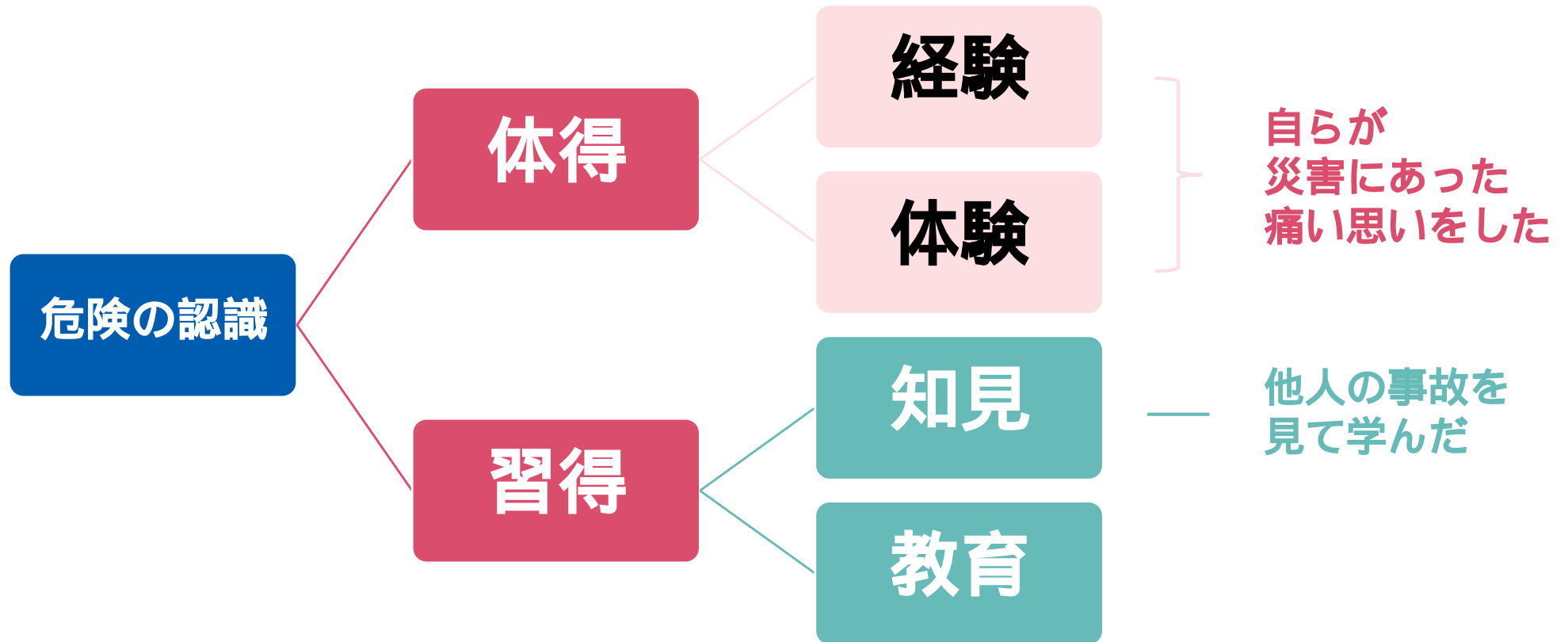
など...



危険感受性を高めるために実施することが大切

危ないこと・ものを
「危ない！」と感じる力

「危険」であるという認識



技術が向上し安全性が高まっている
重大事故が減少している
喜ばしいことではありますが...
危険感受性を高め、安全意識をどのように維持するか
重要な課題であると思います



KYは多くの現場で実施されております

予想される災害	検討した対策
脚立から落ちる	天板では作業禁止
重機と接触する	周囲の確認・合図の確認

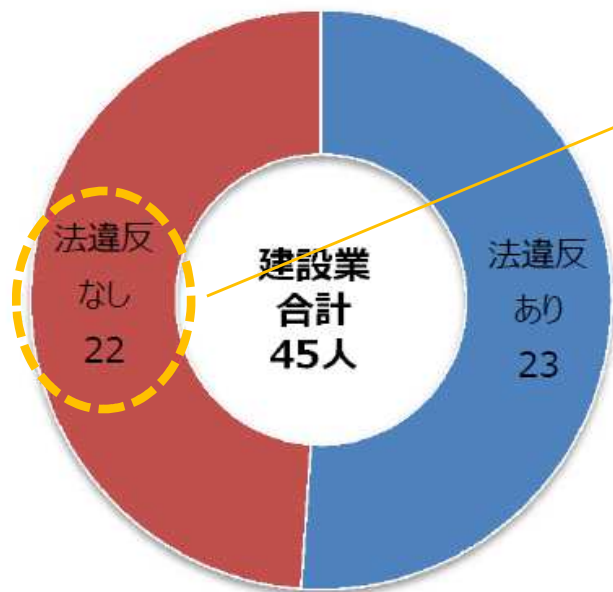
よくある内容です。。。

せっかく実施されるなら

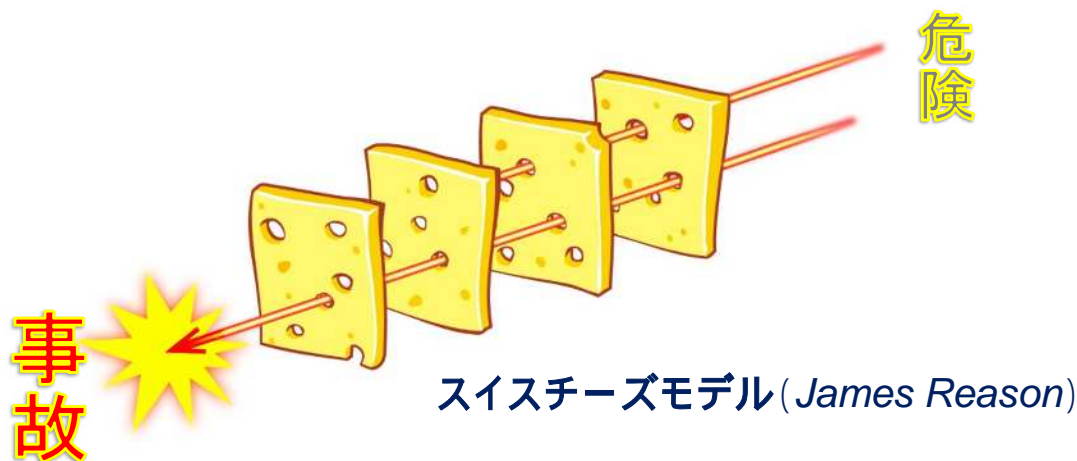
予想される災害	検討した対策
身を乗り出した際に脚立がぐらつき 脚立から落ちる	<ul style="list-style-type: none">・ 脚立は水平な場所に設置する・ 身を乗り出した作業はしない (作業に合った脚立を選定する)
〇〇から移動中に旋回範囲内に入り 重機と接触する	<ul style="list-style-type: none">・ 旋回範囲を避け安全通路を設ける・ 誘導員を配置し通行前に運転を確実に停止させる

現場の状況や予定されている作業をイメージすると
より具体的なKYになると思います

労働災害を防ぐために



建設業の死亡災害45件
約半数は法違反がなかった



事故はチーズ（防護壁）の穴をすり抜けて発生する

異なる防護策を何重にも組み合わせ

事故が発生する 危険性を低減させる

完璧な防護策はないという前提で

防護策を機能させることが大切！

労働災害を防ぐために

完璧な対策はない

安全衛生対策に「完璧なもの」はありません

様々な安全衛生活動でリスクを低減させることが重要です

ヒューマンエラーはゼロにはできない

ヒューマンエラーは起こるものという前提で対策を検討してください

危険感受性を高めることを意識した教育を

危険感受性の低下が懸念されます

日常の安全衛生活動を工夫し、大切にしてください

第99回 全国安全週間

令和8年7月1日(水)~7日(火)

令和8年6月1日(月)~30日(火)

多様な人材
全員参加
みんなで育てる
安全職場

今年で99回目となる全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、労働災害を防止するために業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的としています。

これまで、事業場では、労使が協働して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力により労働災害は長期的には減少しておりますが、近年の労働災害については、死亡災害は減少傾向にあるものの、休業4日以上の死傷災害は平成21年以降、増減傾向が継続しています。

特に、高齢労働者の増加等を背景として、転倒や墜落といった労働者の作業行動に起因する死傷災害が増加し続けており、また、墜落・転落などの死亡災害が依然として後を絶たない状況にあります。

また、労働災害を少しでも減らし、労働者一人一人が安全に働くことができる職場環境を築くためには、令和5年3月に策定された第14次労働災害防止計画に基づく施策を速実に推進するための不断の努力が必要であり、計画年次4回目となる令和8年度においても、労使一丸となった取組が求められます。

そのため、令和8年度は、「多様な人材 全員参加 みんなで育てる安全職場」のスローガンの下、全国安全週間を実施することとしました。

主催 厚生労働省、中央労働災害防止協会
協賛 建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会
沖縄貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会 ※裏面の「令和8年度全国安全週間実施要綱について」もご覧ください。

本日ご参加の皆様の
「無事故」「無災害」を
心よりお祈り申し上げます

ご安全に！

令和7年沖縄労働基準監督署管内における労働災害発生状況

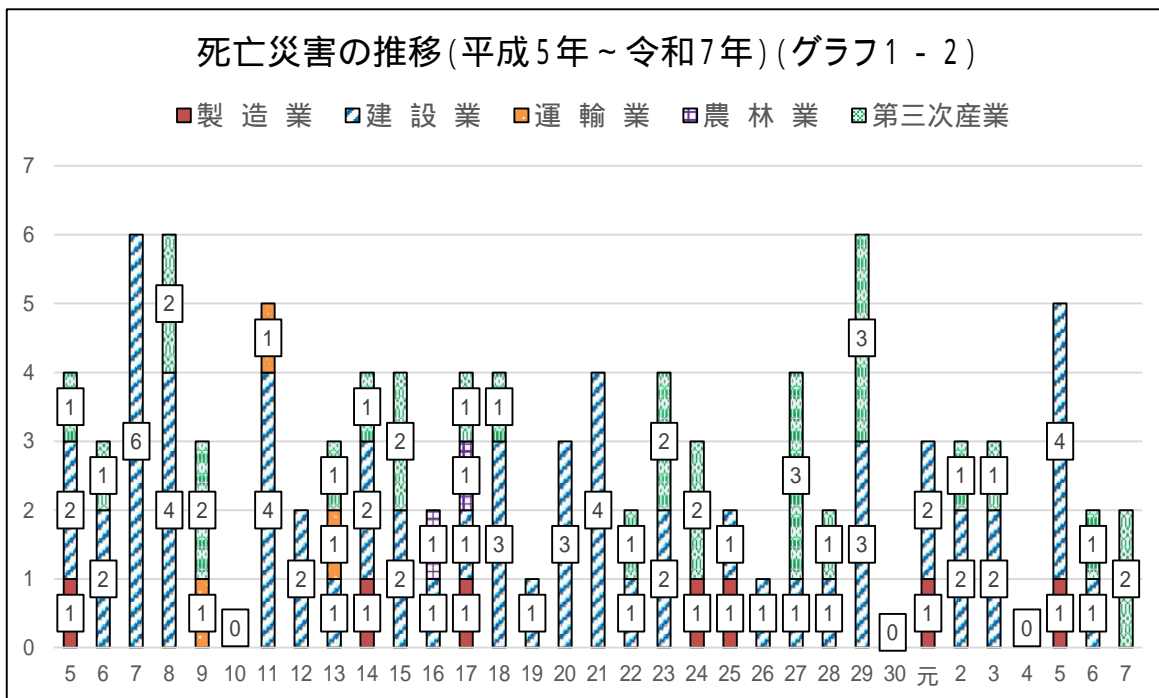
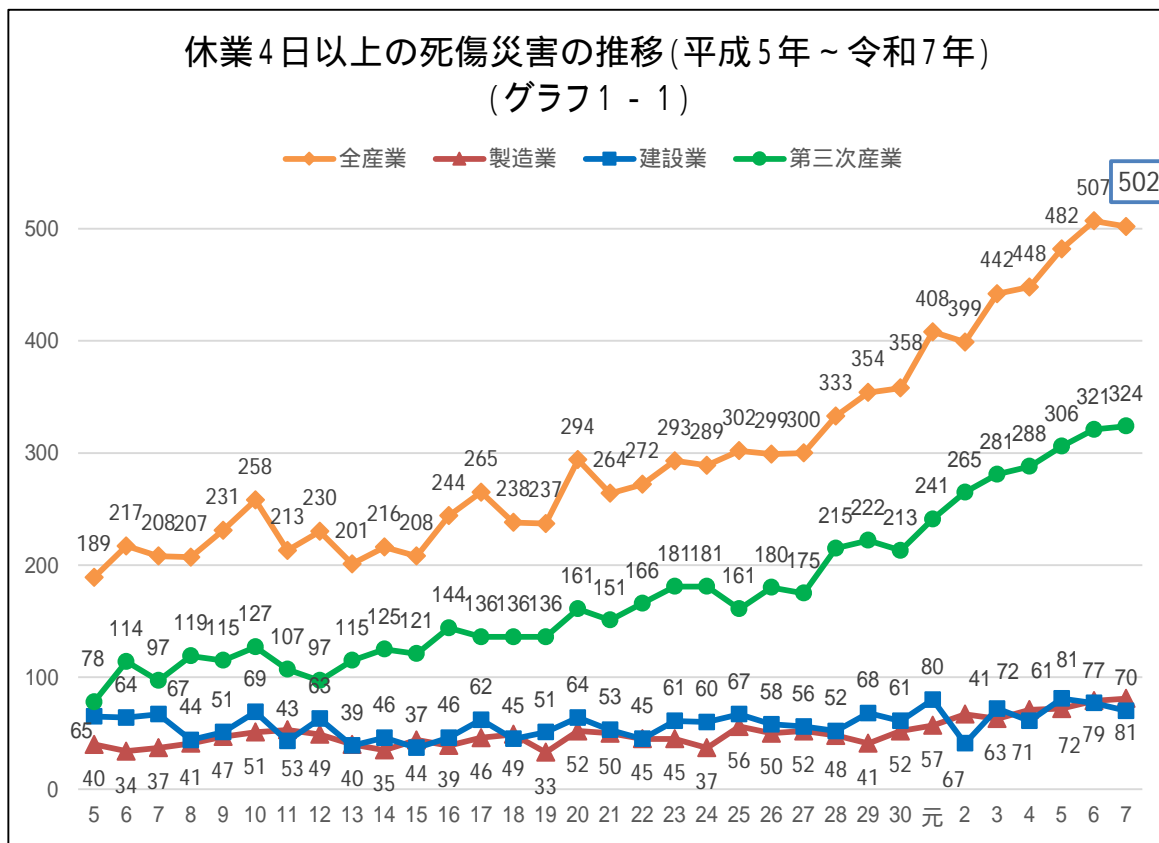
1. 労働災害の推移

沖縄労働基準監督署管内における休業4日以上の労働災害による死傷者数は、平成5年に最少の189人となった以降増加傾向に転じ、令和6年には過去最多の507人（新型コロナウイルス感染症を除く）となった。

令和7年は502人と前年に比べ5人減少したが、2年連続500人超となった。業種別では建設業で7人減少し、製造業で2人、第三次産業で3人増加した。（グラフ1-1）

死亡労働災害は2人（第三次産業）であった。（グラフ1-2）

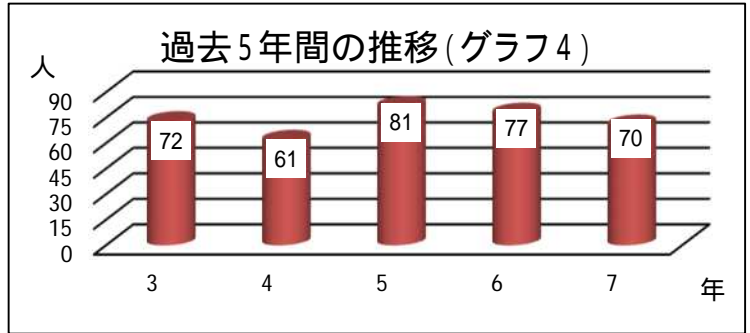
第三次産業（運輸を除く。商業、保健衛生業、接客娯楽業、ビルメンテナンス業、駐留軍間接雇用など）



4. 建設業における労働災害発生状況

令和7年の建設業における休業4日以上の死傷者数は70人で、前年と比べ7人減少した。(グラフ4)

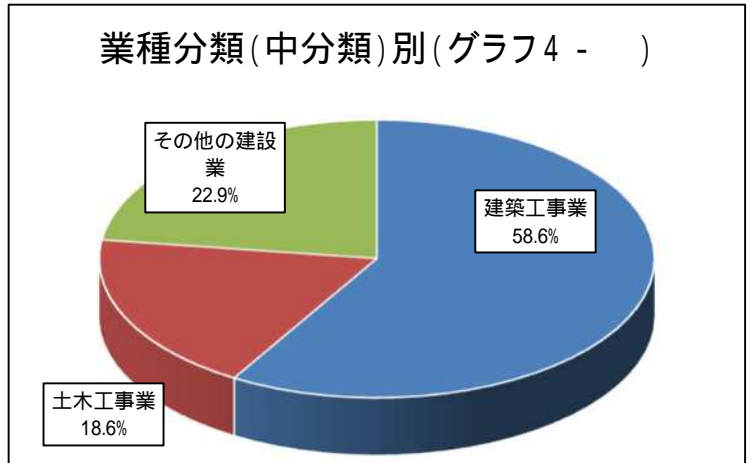
死亡災害は発生していない。



業種分類(中分類)別(グラフ4 -)をみると

建築工事業	41人
・鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	23人
・その他の建築工事業	18人
土木工事業	13人
・その他の土木工事業	10人
・上下水道工事業	3人
その他の建設業	16人

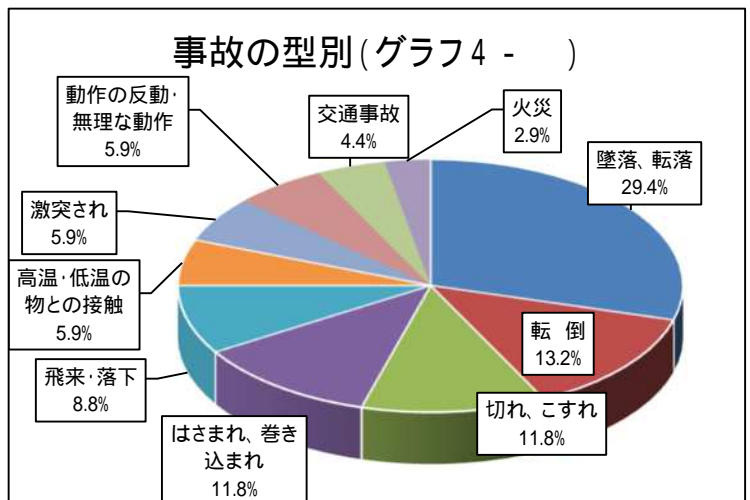
となっている。



事故の型別(グラフ4 -)をみると

墜落、転落	20人
転倒	9人
切れ、こすれ	各8人
はさまれ・巻き込まれ	各8人
飛来・落下	6人
高温・低温の物との接触、激突され、	
動作の反動・無理な動作	各4人
交通事故	3人
火災	2人
激突、その他	各1人

が主な事故の型となっている。



起因物(中分類)別(グラフ4 -)をみると

仮設物・建築物・構築物等	16人
用具	10人
建設機械等	7人
起因物なし	6人
人力運搬機械	5人
動力運搬機械、乗物	各4人
一般動力機械、動力クレーン等	各3人
その他	12人

が主な起因物となっている。

